

令和7年第1回(2月)掛川市議会定例会
一般質問発言順序(予定)

- | | | |
|----|-----|---------|
| 1 | 6番 | 山田浩司議員 |
| 2 | 2番 | 高橋篤仁議員 |
| 3 | 3番 | 鷺山記世議員 |
| 4 | 7番 | 橋本勝弘議員 |
| 5 | 8番 | 石川紀子議員 |
| 6 | 12番 | 勝川志保子議員 |
| 7 | 16番 | 窪野愛子議員 |
| 8 | 10番 | 富田まゆみ議員 |
| 9 | 4番 | 安田彰議員 |
| 10 | 14番 | 鈴木久裕議員 |
| 11 | 5番 | 大井正議員 |
| 12 | 19番 | 草賀章吉議員 |

令和7年第1回(2月)掛川市議会定例会
一般質問発言順序(予定)

3/4(火) AM 6番 山田浩司議員

2番 高橋篤仁議員

PM 3番 鷺山記世議員

7番 橋本勝弘議員

8番 石川紀子議員

3/5(水) AM 12番 勝川志保子議員

16番 窪野愛子議員

PM 10番 富田まゆみ議員

4番 安田彰議員

14番 鈴木久裕議員

3/6(木) AM 5番 大井正議員

19番 草賀章吉議員

一般質問通告要旨

議席番号	6	氏名	山田浩司	質問の方式 (<input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括)
------	---	----	------	---

1 二十歳の集いについて

(答弁：市長)

令和6年度の「二十歳の集い」は、従来の3会場で分散して実施されていた形式から、エコパアリーナ1会場に統合され、多くの成人が集った。この新しい形式では、イベントとしての一体感や運営体制の効率性が期待される一方で、会場へのアクセスや運営体制などについて、市民から様々な意見が寄せられている。例えば、「会場が遠くなった。」「着つけが混み合った。」といった声がある。こうした市民の声を十分に反映しながら、今後の運営方針を策定することが重要と考え以下を伺う。

- (1) 二十歳の集いの目的を伺う
- (2) 市民の意見を踏まえ、従来の3会場での開催に戻すのか、エコパアリーナでの開催を継続するのか、あるいは新たな開催場所を検討するのか方針を伺う
- (3) 令和7年度の開催形式の見直しや改善点の優先順位をどのように決定するのか方針を伺う
- (4) 事前周知の方法として、公式LINE、広報かけがわ、SNSなどを活用し、より多くの市民に早い段階で正確な情報を伝える仕組みを強化する必要があると考えるが、見解を伺う

2 南西郷地域開発事業について

(答弁：市長)

南西郷地域は、掛川市全体の発展において重要なプロジェクトとして位置づけられるべき地域である。この地域は優れた立地条件を持ち、多様な開発の可能性が期待される一方で、66ヘクタールに及ぶゾーニングや地形の課題、地元住民や地権者への継続的な説明が不可欠である。令和6年12月に地域説明会が実施されたが、具体的な計画や持続可能な発展に向けた道筋はまだ不透明である。

また、この事業は、観光資源を活用した商業、レジャーゾーンによって、地域ブランド力の向上、新たな雇用の創出、そして持続可能な地域社会の構築を目指すものであり、市の未来を左右する重要な取組と言える。市として明確な方針と具体策を示し、計画を進める必要があると考え、以下の点について伺う。

- (1) 市長の南西郷地域についての発言には、ここ何年かで変化が見られる。市長の中でどのような判断や要素がこの変化につながったのか伺う
- (2) この事業における具体的な開発計画や事業スキームの検討状況を伺う
- (3) 移住促進を目指し、インターナショナルスクールなどの誘致を検討すべきと

考えるが、その可能性について伺う

- (4) 都市計画マスタープランでは、立地条件を生かした有効活用検討エリアとして示している。次期掛川市総合計画では、どのような位置づけでこの事業を行っていくのか見解を伺う
- (5) 市長の未来会議プレスでは、「南西郷地区の開発プロジェクトの実現」と示している。その決意について伺う
- (6) 南西郷地域の開発を進めていくためには、事業者任せだけでなく、市長自らが観光に関連する企業や投資家、事業者と直接交渉を行い、トップセールス活動をすべきと考えるが、見解を伺う

※トップセールス活動とは、市長が観光に関連する企業や投資家、事業者と直接働きかけ、掛川市の魅力を自ら伝えることで、信頼性を高め、投資や協力を引き出す活動

一般質問通告要旨

議席番号	2	氏名	高橋篤仁	質問の方式 (<input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括)
------	---	----	------	---

1 防潮堤について

(答弁：市長)

東日本大震災以降、掛川市南部に住む住民にとっては地震災害と共に津波が来る恐れに対し、日頃より不安な気持ちを持ち続け生活している。当市も防潮堤建設にあたり、当初予定していた完成時期を前倒しして、対応を早め地域住民の不安解消に努めてきた。完成時期も近づき、今後の方針について重要と考え以下を伺う。

- (1) 津波災害警戒区域は、防潮堤完成後に見直されるか伺う
- (2) 津波災害警戒区域に指定された居住者の不安解消策として居住誘導区域内に転居用地を確保すべきと考えるが、見解を伺う
- (3) 海岸線地域ビジョン実施計画の中に、津波等注意喚起看板表示や避難行動の方針をしっかりと明示すべきと考えるが、見解を伺う

2 多極ネットワーク型コンパクトシティの推進について

(答弁：市長)

掛川市では、掛川市都市計画マスタープランに基づき、多極ネットワーク型コンパクトシティを掲げ、将来に向け持続可能なまちづくりを計画的に進めている。また、居住誘導区域を指定し立地適正化計画を基に生活の利便性や生活向上力を高め、3か所の拠点を中心に居住誘導を進めている。しかしながら、居住誘導が順調に遂行しているとは言い難い現状を踏まえ、地域拠点の形成やまちづくりの方向性が重要と考え以下を伺う

- (1) 持続可能なまちづくりに向け、コンパクトシティ構想の重要性について伺う
- (2) 居住誘導区域内に居住用の用地は足りているか伺う
- (3) 居住誘導区域外への建築に対し、制限を設ける考えはあるか伺う
- (4) 都市計画マスタープランにおける多極ネットワーク型のまちづくりの具体的施策を伺う
- (5) 公園整備は拠点づくりの核として重要な位置づけとなっているが、公共用地などを新たに活用できないか伺う
- (6) 一つの地域拠点内を循環する生活向上公共交通が必要と考えるが、見解を伺う
- (7) 居住誘導区域内の空き家の活用化対策は、魅力ある拠点づくりにおいて重要と考えるが、見解を伺う

一般質問通告要旨

議席番号	3	氏名	鷺山記世	質問の方式 (<input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括)
------	---	----	------	---

1 子供たちの健全な成長を支えるスポーツ環境整備と安全確保について

(答弁：市長、教育長)

子供たちにとって、スポーツは世代交流や協力しあうことで、身体的成長や心の成長、社会性の発達等、健全な成長を支える重要な要素である。しかし、登録している団体によって、活動拠点となる市内学校施設の利用条件が異なることや、老朽化により安心して使用することができない学校施設が増えている。

また、学校施設は広域避難所にもなっていることから、子供たちがのびのびと活動でき、いざという時には市民が安心して避難できる場として環境を整えることが必要であると考え、以下を伺う。

- (1) 掛川市に登録している各種スポーツ団体と公認地域クラブは、それぞれ所管課が違うために学校施設の利用条件に違いがある。不公平感を解消するすべはあるのか伺う
- (2) 老朽化が進んでいる学校のグラウンドや体育館は、市民が安心して使用できるよう、早急に整備が必要と考えるが、見解を伺う
- (3) 広域避難所については、急激な人口増加が見られる地域と高齢化や人口減少が見られる地域等、状況に変化が見られることから、早急な見直しが必要と考えるが、見解を伺う

2 掛川市のホームページの改善について

(答弁：市長)

掛川市のホームページにあるサイト内検索を使い、知りたい情報を検索しても情報にたどり着くことができないが、民間の検索サイトを使うとすぐにたどり着くことができる。そのため掛川市の情報を調べる場合、民間の検索サイトを最初の入口として利用される市民もいる。より使いやすいホームページの改善が必要であると考え、以下を伺う。

- (1) 市民が掛川市のホームページにあるサイト内検索を使った場合、知りたい情報にたどり着かない理由を伺う
- (2) 掛川市のホームページの公共施設一覧を、分野ごと整理する必要があると考えるが、見解を伺う

一般質問通告要旨

議席番号	7	氏名	橋本勝弘	質問の方式 (<input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括)
------	---	----	------	---

1 ガストロノミーツーリズムの推進について (答弁：市長)

掛川市においては、掛川市海岸線地域ビジョンの中で、ガストロノミーツーリズムの推進をいち早く取り上げ、令和7年度から実施の段階に入るとしている。

王将戦第1局で提供された、よこすかしろ羊羹にも使われている「よこすかしろ」をはじめ、調味料の「さ・し・す・せ・そ」が地元産でそろいとされ、食文化として発信する素材には事欠かない。令和7年度組織編成において、稼げる観光を標榜する産業観光課に相応しい取組と考える。

そこで、その土地を歩きながら、その土地ならではの食を楽しみ、歴史や文化を知り、地場産業の振興にも寄与することが期待されるガストロノミーツーリズムの推進について、具体的に進める必要があると考え、以下について伺う。

- (1) 温泉を組み合わせたONSENガストロノミーウォーキングという手軽なイベントから取組をスタートさせている自治体の例も見られる。そこで、横須賀やリバティリゾート大東温泉の南部エリア、粟ヶ岳の東山エリア、倉真温泉、法泉寺温泉エリアなどを活用した、ガストロノミーツーリズム推進の具体的な内容について伺う
- (2) 海岸線地域振興ビジョンの施策やONSENガストロノミーウォーキングなどイベントの推進にあたり、県の補助金等の活用を検討すべきと考えるが、見解を伺う

2 上西郷地区整備推進事業への企業誘致の推進について (答弁：市長)

積年の課題である、上西郷地区整備推進事業用地については、関係各位の努力の甲斐あって令和7年度に造成工事が終わる段階に至った。しかし、それだけでは地域の振興、掛川市の発展に寄与するとまでは言い難い。造成された用地に公募型企画提案で示した地域貢献も期待される企業誘致の目途がついて、初めて完結と言える。こうしたことを踏まえ、以下について伺う。

- (1) 事業の進捗状況について伺う
- (2) 地元課題への対応状況について伺う
- (3) 完成後の企業誘致への取組と現在の引き合い状況について伺う

一 般 質 問 通 告 要 旨

議席番号	8	氏名	石 川 紀 子	質問の方式 (<input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括)
------	---	----	---------	---

1 掛川市地域公共交通計画について

(答弁：市長)

掛川市は、令和5年度に掛川市地域公共交通計画が策定され、「市民ニーズに対応した持続可能かつ効果的、効率的な交通体系の構築」を進めているが、公共交通が少ないことが課題である。

交通の利便性が向上することにより外出意欲を高め、人とのコミュニケーションを楽しむなど、移動の目的を持つことが可能となる。また、地域の活性化にもつながると考える。そこで、以下について伺う

- (1) 掛川市では、人と環境の持続可能性を掲げているが、掛川市地域公共交通計画の具体的な施策を伺う
- (2) 通勤、通学、通院、買い物などの日常生活において、交通の不便を感じている市民が多い現状をどう捉えているのか伺う
- (3) 自動運転実証実験の結果を今後に活かすべきと考えるが、見解を伺う
- (4) 高齢化が進み免許証返納者等、交通弱者の増加等を鑑みると、市全体に公共交通の展開が必要と考えるが、見解を伺う
- (5) 掛川区域、大東区域、大須賀区域のコンパクトシティ3箇所について公共交通ネットワークの構築が必要と考えるが、見解を伺う
- (6) 近隣市との公共交通ネットワークの構築も必要と考えるが、見解を伺う
- (7) AIオンデマンド利用者を増やすために、高齢者や小学生、中学生など効率よく効果的に使える方策が必要と考えるが、見解を伺う

一般質問通告要旨

議席番号	12	氏名	勝川志保子	質問の方式 (<input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括)
------	----	----	-------	---

1 持続可能なまちづくりにつながる子育て支援を (答弁：市長、教育長)

子育て支援として、子どもの遊び場は無償もしくは低料金としている自治体がほとんどの中で、掛川市がオープンさせる屋内遊び場は、料金設定に幼児や子ども料金がなく、市長の言うように気軽には利用できないことが危惧される。子育ての費用を無償化させることで、経済の好循環を起こし人口増加につなげている他の自治体にも学び、思い切った子育て支援の無償化を行うことが、持続可能なまちづくりにもつながると考え、以下を伺う。

- (1) たまり～な内に整備される室内遊び場の利用料金を見直し、誰もが気軽に利用できる施設にすべきと考えるが、見解を伺う
- (2) 仕事を続けながら子どもを産み育てる選択を後押しするには、3歳未満児の保育料無償化の拡大は非常に有効であると考え、見解を伺う
- (3) 国民健康保険税の子どもの均等割分を補填できる支援策が考えられないか伺う
- (4) 経済負担により、子どもを産み育てることを諦めることがないように、学校給食費の無償化に取り組む考えがないか伺う
- (5) 入学準備金の前倒し支給などが実現した就学援助だが、相対的貧困率に見合う制度利用を目指すべきと考えるが、見解を伺う
- (6) 就学援助の支給内容を見直し、通学費として通学用自転車購入費、地域クラブも含めた文化スポーツ活動費、オンライン学習通信費など文部科学省の示す項目に沿った拡充を検討すべきと考えるが、見解を伺う

2 維持管理の徹底で心地よく住める生活空間を (答弁：市長)

街区公園を含めた公園は、整備から年数が経ち、石が露出する、斜面が崩れる、砂場に砂がない、樹木剪定や草刈り、芝生管理などが行き届かないなど、市民が安全で気持ちよく過ごせるとは言えない荒れた状態となっているところがある。

また、道路や横断歩道の白線などが消え、危険を感じることも多い。

公共空間の維持管理を自治体など市民ボランティアに頼る限界が見えている中、市民からは、市による維持管理の徹底で、人の手が入った心地よい生活空間実現の要望が高いことから以下を伺う。

- (1) 地域の街区公園を含め、市内公園を安全で気持ちよく過ごせるよう、自治体任せ、委託業者任せにせず、維持管理に市が責任を持つべきと考えるが、見解

を伺う

- (2) 市のLINE通報項目を拡大し、歩道上の段差や、見通しを遮る樹木、道路や横断歩道などの表記が消えかけて危険なところ、公共施設内の段差などの通報にも対応できるようにすべきと考えるが、見解を伺う
- (3) 降雨時の排水確保のため、定期的な道路側溝等の土砂清掃が行えないか伺う
- (4) 生涯学習センター内の段差など公共施設内の放置されている危険箇所への対応を伺う

3 投票所等の見直しを

(答弁：市長、選挙管理委員会委員長)

投票率が下がり、政治への無関心が進むことは民主主義の危機である。有権者にとって大切な選挙権を保障するために、早急に投票所等の見直しなどに取り組むべきと考え、以下伺う。

- (1) 高齢者が自力で投票に行くことができない第2投票区（第一小学校）は、早急に見直すべきと考えるが、見解を伺う
- (2) 市内の投票所配置や、期日前投票の在り方などを大胆に見直し、投票しやすい環境をつくる必要があると考えるが、見解を伺う

一般質問通告要旨

議席番号	16	氏名	窪野愛子	質問の方式 (<input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括)
------	----	----	------	---

1 進化、成長への取組と財政健全化について (答弁：市長)

令和7年度の行政経営方針には、少子・高齢・多死社会であっても、「人と環境が持続し発展するまち」の実現に向け、進化し続けるために成長のアクセルを踏み込み、主要事業に予算を重点配分することのだが、今後、学校再編や新廃棄物処理施設整備等により生じる大きな財政負担や、ふるさと納税等の伸び悩みも懸念される。令和6年8月に令和5年度の決算審査結果及び基金運用状況の審査意見が監査委員から提出されたことを踏まえ、以下について伺う。

- (1) 監査委員から業務の見直しによる事務の効率化や、適正で計画的な行政経営について意見があったが、令和7年度の市政経営にどのように反映されるのか伺う
- (2) 今後、大型事業等により財政負担の増大が見込まれる中、人口減少社会であっても高齢化等に伴い、社会保障費は増加の一途である。持続可能な行政経営をするための方策を伺う
- (3) 社会環境の変化や災害等の不測の事態や年度内の財源不足に迅速に対応するため、財政健全化に向けた財政計画の策定が必要と考えるが、見解を伺う

2 高齢化と多死社会への対応について (答弁：市長)

団塊の世代がすべて後期高齢者となる令和7年、そして、団塊ジュニア世代が前期高齢者となる2040年問題や高齢者の独居世帯や老々世帯の増加をはじめ、地域社会を取り巻く様々な課題が浮き彫りとなっている。本市の令和6年4月1日現在の高齢化率は28.7%、後期高齢化率は14.9%であり35市町の中で順位は29番目と県内では比較的若い市ではあるが、高齢化、超高齢化は着実に進んでいる。

高齢化、多死社会に対応するためのさらなる環境整備が急務となっていることから以下を伺う。

- (1) 自分が自分らしく生活をおくり、最期はどうありたいかについて、家族や身近な人と話し合い伝えておくことは重要なことである。アドバンス・ケア・プランニングのさらなる普及、啓発が必要と考えるが、見解を伺う
- (2) 「おくやみコーナー」が開設され4年以上が経過するが、今日までの成果と課題及び今後の取組を伺う
- (3) 加速する高齢、多死社会の様々な問題や課題に対して、市長は今後どのような方策を持って対応していくのか見解を伺う

※「アドバンス・ケア・プランニング」とは、人生の最終段階で受ける医療やケア等について、患者本人と家族等身近な人、医療従事者等が事前に繰り返し話し合う取組のこと。厚生労働省において“人生会議”と愛称が付けられた。

一般質問通告要旨

議席番号	10	氏名	富田まゆみ	質問の方式 (<input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括)
------	----	----	-------	---

1 原子力災害における避難について (答弁：市長)

原子力災害における避難行動については、屋内退避から地区ごとに避難先自治体へ移動する、大まかな避難の流れが防災ガイドブックに記載されている。しかし、市民は実際にどのような行動をとったらよいのか理解ができておらず、不安材料が非常に多い状況である。令和3年11月、令和6年2月の一般質問で、原子力災害における避難について伺い、いくつかの回答をいただいたが、令和7年2月3日の原子力防災ワークショップに参加した際、原子力災害広域避難計画が進んでいないと感じた。当日の参加者や市内多くの方々からも不安の声がたくさん届いている状況であることから、今後の原子力災害広域避難計画について伺う。

- (1) 避難先自治体の現地確認と避難経由所でのマニュアル作成を進めているとのことだが、詳しい進捗を伺う
- (2) 18の避難単位ごとに、避難の流れ、避難先、避難経由所、想定される避難経路を分かりやすくまとめたリーフレットを作成し、全戸配布を検討していくとのことだが、進捗状況を伺う
- (3) 防災ガイドブックの家族の避難計画に原子力災害を加え、原子力災害により想定される事象を市民に周知し、市民は自身の命を守る、守れた命をどうつないでいくかを、前もって家族や近所で共有するよう、今以上に周知していくことが被災後の混乱を軽減することにつながると考えるが、見解を伺う

2 自治体広報の在り方について (答弁：市長)

市政に参画する市民を増やすには、自治体広報が重要と考える。これまでの広報は、住民の求める情報というより、市役所が伝えたいことをお知らせする行政サービス広報が主であったと感ずる。広報の目的は、官公庁や企業、各種団体が、事業内容や活動状況を一般の人に広く知らせ、理解を求めることである。そのため、これまでの広報に加え、市民や企業などとのより良い関係づくりや、組織と人をつなぐ考え方や活動が必要と考える。

この基本的な考え方を踏まえ、今後の自治体広報について、以下の点について伺う。

- (1) 改めて、広報の役割、目的をどう捉えているか、また、時代とともに変化している自治体広報に期待されることをどのように捉え、広報に反映しているか伺う

- (2) 誰にも伝わりやすい広報の手段や工夫が必要と考えるが、見解を伺う
- (3) 学校再編や新廃棄物処理施設建設事業など、身近で市民生活に直接影響する大きなプロジェクトについては、プッシュ式で定期的に情報が届くなど、市民理解や協力が得られるようタイムリーな情報提供体制が必要と考えるが、見解を伺う
- (4) 地域外からの移住者や観光客の誘致、インバウンド需要の取り込みなどによる地域活性化が必須と考えるが、対外的な広報戦略を伺う

3 ふるさと納税の推進について

(答弁：市長)

これまでの掛川市のふるさと納税寄附額は、近隣市町が寄附額を伸ばしている一方、令和3年の9億9,918万円をピークに少しずつ減少し、令和6年度は現時点で目標額の10億円を大きく下回る4億6,000万円ほどである。

令和7年度の一般会計歳入歳出予算は600億円を上回り、財政状況が厳しい中、市民サービスを維持しながら健全な財政運営をしていくにあたり、歳出削減と同時に、稼げる自治体を目指すことも大きな役割と考える。その一つとして、ふるさと納税の寄附額を上げることも大切な要素になると考える。今後を見据えたふるさと納税の在り方について伺う。

- (1) 令和6年度、大幅に寄附額が減少している理由をどのように総括しているか伺う
- (2) 令和7年度より新体制となる、ふるさと納税推進室は、具体的で明確な目標を定め取り組むべきと考えるが、見解を伺う
- (3) 既存の返礼品の磨き上げも大切であるが、新開発などブランディングとプロモーションの強化も重要と考えるが、見解を伺う
- (4) 宿泊、観光施設の優待や体験型の返礼品を取り入れることも有効と考えるが、見解を伺う
- (5) 自動販売機でふるさと納税を決済できる活用も有効と考えるが、見解を伺う
- (6) ふるさと納税に協力したくなるようなホームページの仕掛けを進めるべきと考えるが、見解を伺う
- (7) 市長、副市長はもちろんのこと、部長職もふるさと納税や企業版ふるさと納税のセールスに積極的に関わることが有効と考えるが、見解を伺う

一般質問通告要旨

議席番号	4	氏名	安田 彰	質問の方式 (<input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括)
------	---	----	------	---

1 学校再編に伴い建築される学校の校舎・複合施設について

(答弁：市長、教育長)

原野谷学園小中一貫校と城東学園小中一貫校の建設地が決まり、校舎建築が順調に進むことを期待している。

これまで地元合意が得られるように、多くの会合を重ねてきている。地域と共にある学校という意味で、地域の考えを酌み取ることは重要である。一方、掛川市でつくろうとしている新しい学校の校舎についての基本的な考えを示すことも大切なことであるとする。また、公共施設との複合化については、まちづくり協議会や子供の居場所づくり等、地域の意向を酌みながらも、市としての方向性を示す必要があると考える。

そこで、学校再編に伴い建築される学校の校舎及び複合施設について伺う。

- (1) 新しい校舎は、市民にとってはもちろん、市外の方に対しても掛川市の魅力を発信する絶好の機会と考える。校舎のアピールポイントが必要だと考えるが、見解を伺う
- (2) 教室に入りづらい児童生徒や、登校復帰を目指す児童生徒が落ち着いた空間で学習や生活ができる校内教育支援センターを設置すべきと考えるが、見解を伺う
- (3) プールについては、共同化や市内の屋内プールの利用等を想定した上で、必要な数を整備するという計画となっているが、具体的な構想を伺う
- (4) 掛川区域においては、小学校にある地域生涯学習センターがまちづくり協議会の拠点になっている。学校再編に伴い、市内全域のまちづくり協議会の拠点をどのように考えるのか、今後の構想を伺う
- (5) 再編に伴い複合される施設に、児童館の機能を持たせることが、児童生徒及び子育て世代への支援として有効であるとするが、見解を伺う

2 誰もが安心できる道路の整備について

(答弁：市長)

市役所周辺を歩いていて、街路樹の根上がりにより、つまづいたり、草が生い茂ることで歩道が狭まり、自転車やシニアカーが車道を走行する場面を目にする。また、街路樹の中には幹や枝が傷んでいるものも見受けられ、倒木を未然に防ぐ危機管理が重要だと感じている。

そこで、道路環境の整備について、以下の点について伺う

- (1) 根上がりによる歩道の損傷箇所の状況及び対策について伺う
- (2) 街路樹の倒木の危険度について調査を行い、適切に対応することが市民の安心につながると考えるが、現状及び対策について伺う
- (3) 草が生い茂ることで、歩道が大幅に狭くなる箇所については、植樹帯の撤去が有効と考えるが、見解を伺う

一般質問通告要旨

議席番号	14	氏名	鈴木久裕	質問の方式 (<input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括)
------	----	----	------	---

1 自治基本条例の定期的検証状況について

(答弁：市長)

掛川市自治基本条例が平成25年4月1日に施行されて間もなく12年になる。条例第29条第1項では、「市長は、この条例の施行の日から4年を超えない期間ごとに、この条例の運用状況について検証を行うものとする。」とされている。このことについて伺う。

- (1) 条例上、既に3回の検証を行っていると思うが、これまで、いつ、誰がどのように行い、その結果はどのような形で報告されているか、伺う
- (2) 久保田市長になってから行った検証において、どのような運用状況であったか、所見を伺う
- (3) 市幹部が近ごろ盛んに唱える、多様性、公平性、包摂性といった視点を盛り込むべく、第29条第2項による見直しをする考えはないか、見解を伺う

2 生涯学習まちづくり土地条例の運用状況と今後について

(答弁：市長)

令和4年11月議会での質問に対する答弁に基づく対応状況について、フォローアップ的に以下を伺う。

- (1) 水質浄化に関する特別計画協定区域において浄化槽市町村設置事業を行わなくなったことについては見直しが必要であった、是正をしていきたいとの答弁であったが、その後の対応状況を伺う
- (2) 特別計画協定区域の23、促進区域10のうち、時代に照らして計画の内容がそぐわないと判断されたものに対して、地元と話をしていくとのことであったが、その後の対応状況を伺う
- (3) 令和4年の時点で既に、この条例によって土地利用上の規制誘導を図らないと問題になるような協定区域はないとの答弁であった。問題ないものを私権制限し縛り付けておくことは、あってはならないことではないか、改めて伺う
- (4) 本条例の意義と果たしてきた役割は評価しつつ、今日的状況を考えれば、廃止すべきと考えるが、見解を伺う

3 財務会計システムの更新と市民にもわかりやすい予算・決算説明資料について
(答弁:市長)

新しい財務会計システムは令和8年1月稼働を目途に現在構築中と聞いている。そこで以下を伺う。

- (1) 現在のシステムと新システムではどういった点が変わるのか、伺う
- (2) 現財務会計システムをもとに作成される予算・決算説明資料について、令和6年7月には議会として、改善のため具体的に様式まで示した政策提言をしたところだが、今回の新システムに併せて議会の提言に沿って改善されるのか、進捗状況と併せて伺う
- (3) 政策、施策、事務事業について、目的と成果の階層構造と考えるとき、現在の目と細目の2階層で作戦体系を合理的に組み立て、展開できるのか、所見を伺う
- (4) 以前のように細々目まで入れた3階層とすべきではないか、見解を伺う

一 般 質 問 通 告 要 旨

議席番号	5	氏名	大 井 正	質問の方式 (<input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括)
------	---	----	-------	---

1 中学校部活地域移行の準備を万全にするために (答弁：市長、教育長)

令和8年8月の中学校部活の地域移行により、現在の小学校5、6年生は活動の途中で移行を直接体験することになる。その際の混乱は絶対に避けなければならない。また、中学校入学時に部活に入らないなど、従来と異なる対応をする可能性がある。こうしたことが、かけがえのない中学生生活の中の遺恨とならないよう、最後の準備年度である令和7年度中に、万全の準備を整える観点から以下について見解を伺う。

- (1) 令和8年8月から活動できる地域クラブの種目数、教室数、受入れ可能人数について、スポーツ系、文科系に分けて伺う
- (2) 令和6年9月に実施された小学生アンケートの結果は、地域クラブのクラブ数などに反映されているか伺う
- (3) 指導にあたる個々のスポーツ団体や文化団体との協議、調整の進捗状況を伺う
- (4) 全国に先駆けて実施する完全移行のリスクや課題を伺う
- (5) 保護者の経済的、時間的負担軽減の具体的な対策を伺う
- (6) 中学校の学業終了時刻から、地域クラブ開始時刻までの生徒の過ごし方を伺う
- (7) 地域部活に移行することで、教職員が授業や学校行事以外で、一人一人の生徒を理解するための非常に大きな情報源を失うことをどう考えるか伺う

2 地域防災計画を実効性のあるものにするために (答弁：市長)

掛川市では令和4年の台風15号以来、毎年のように台風や大雨の出水災害が起きている。全国的にも地震をはじめとする各種自然災害が多発する傾向にある。実情に合った防災計画とこれに即した体制の確立が、災害発生時の減災と速やかな避難に直結すると考え、以下について見解を伺う。

- (1) 災害対策本部活動マニュアルの改訂の進捗状況を伺う
- (2) 掛川市地域防災計画に定められた、地区ごとに作成すべき「地区防災計画書」は、いまだ半数以上の地域で未作成である。今後の対応を伺う
- (3) 自主防災組織ごとに整える4つの台帳※1の作成と保管状況を伺う
- (4) スフィア基準※2に基づく避難所の整備計画の改定や、具体的な整備状況を伺う

(5) 災害協定締結の進捗状況と、締結者との協議及び訓練実施状況を伺う

※1 4つの台帳とは、掛川市地域防災計画に定められた「世帯台帳」「避難行動要支援者台帳」「人材台帳」及び「自主防災組織台帳」。

※2 スフィア基準とは、人道支援における国際基準。人道憲章と、人道支援における最低基準を示す。紛争や災害の被害者が尊厳のある生活を送ることを目的とする。

一般質問通告要旨

議席番号	19	氏名	草賀章吉	質問の方式 (<input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括)
------	----	----	------	---

1 市制20周年を迎えるにあたり

(答弁：市長)

合併議論は平成13年に掛川市と大須賀町、浜岡町、小笠町、菊川町及び大東町の1市5町協議から始まり、多くの協議の末、平成17年には、掛川市、菊川市及び御前崎市の3市となった。

合併後、市長は1期4年の戸塚進也氏、3期12年の松井三郎氏、そして現職の久保田崇氏が市政を担い20年が経過した。日本は「失われた30年」などと呼ばれ、バブル崩壊後の経済の停滞が続き厳しい環境下ではあったが、掛川市のこの20年を素直に振り返り評価することが、明日の掛川市を創ることになると考え、以下を伺う。

- (1) 平成の大合併をどのように評価しているか、見解を伺う
- (2) 掛川市20年間の市政で評価の高いものを具体的に伺う
- (3) 評価の低いものはどのようなものか、課題を含め伺う
- (4) 掛川市の市政理念は、「生涯学習都市宣言」にあると思うが、見解を伺う
- (5) 静岡県知事鈴木康友氏の著書「市長は社長だ」をご存じか。読まれていたら感想を伺う

2 市長が描く10年後の掛川の未来について

(答弁：市長)

掛川未来会議プレス令和7年1月3日号の「久保田が描く10年後の掛川の未来」には、①活力ある地域経済、②安心と魅力がある暮らし、③未来に繋ぐまちづくりに区分された9項目の事業別の構想が示されている。実現していただきたい内容ばかりであるが、身近なことについて、以下を具体的に伺う。

- (1) 女性創業とは、その課題認識と支援策を伺う
- (2) まちなかの賑わい創出について、そのイメージと具体策を伺う
- (3) 犯罪抑止や犯人特定などには、防犯カメラ映像が決め手となる事例が多いことから、市内への計画的設置を加えるべきと考えるが、見解を伺う
- (4) 茶業・農業のあらゆる生産者支援の充実とは、どのような施策を考えているのか伺う
- (5) 空き家リノベーションは、どのような仕組みを検討しているのか伺う

3 市庁舎内における営業活動について

(答弁：市長)

- (1) 市庁舎には多くの事業者が出入りし、公私に渡る営業活動がされているが、そのルールや規則があるのか伺う
- (2) 政党機関紙を市職員に届けているとのことであるが、購入者に機関紙を届けているのか、それとも無料で配布しているものなのか実態を伺う